ninoyu satoshi

発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成24年 No.242 2月号

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

解散総選挙必至の情勢

谷垣総裁マニフェスト違反厳しく追及

1月24日に第180回通常国会が召集された。野田総理は所信表明演説の中で、税と社会保障の一体改革の実現に必要な財源である消費税の増税について、自民、公明をはじめ、野党に協議を呼びかけた。これに対して各野党は政府案を国会に提出することが最優先であるとして、与野党協議に応じる気配はない。民主党は先の総選挙で、任期中は絶対に消費税は上げないと断言して政権を獲得した。政権欲しさに国民を欺いたと厳しく批判されても仕方がない。自民党としても簡単に協議に応じる訳にはいかない。野党は参議院において、4月にも野田首相をはじめ、問題閣僚の問責決議案を出す構えを見せている。そうなれば国会は完全にストップ、予算関連法案は審議できない状態になる。野田内閣に残された道は、総辞職か解散総選挙。総選挙になればゴールデンウイーク明けにも投票日になると囁かれている。

参議院本会場で野田内閣の社会保障、震災復興政策に厳しい質問をする中村博彦(比例区・写真上)、末松信介(兵庫選挙区・写真下)両氏

恒心

★民主主義国家において、国民は選挙権を行使することで、政治に参加することが出来る。どんな政治体制を選択するのか。それは国民の尊い意思である。選挙権はそれほど国民にとって重い権利である。★明治22年の帝国憲法下での選挙権は国税15円以上納めている25才以上の男子。明治33年に10円以上に拡大された。大正8年に3円以上になり、大正14年に普通選挙法が成立し、納税条件が無くなったが、それでも25才以上の男子のみであった。昭和20年の新憲法下で、ようやく20才以上の男女に選挙権が与えられた。★納税の有無、性別を問わず、成人男女全てに選挙権が与えられるまでに実に56年の歳月がかかった。その間、普通選挙権を獲得するために、先人たちの血の滲むような戦いの歴史があった。権利のための闘争が繰り返されたのである。★そんな苦闘の歴史があるのに、野田内閣は今通常国会で選挙権を20歳から18歳に引き下げるために公職選挙法の改正案を提出する意向であるとの報道があった。選挙権を変更することは、国の政治の方向を変える極めて重要な問題であり、時間をかけて、じっくりと検討する必要がある。★しかも選挙権を引き下げることは、単に選挙権だけにとどまらない。18歳を成人と認めるならば、すべての方面に大きな影響を及ぼすことになる。関連する法律、政令だけで300ほどあるという。これらの問題をどうするのか。実現する見通しもないのに、アドバルーンを上げるのは民主党のお家芸。選挙が近くなって、国民の歓心を買うために法案を提出するだけといわれても仕方があるまい。

二ノ湯議員、ラオス、タイへ

平成23年度参議院政府開発援助調査派遣第４班（団長中村博彦（自民）、石橋通弘（民主）、二之湯智（自民）、松田公太（みんな）、山下芳生（共産））の５人は、１月７日から15日まで、ミャンマー、ラオス、タイを訪問し、各国の要人との意見交換、我が国のＯＤＡ（政府開発援助）案件の視察などを行った。二之湯議員は国内での公務のためにラオスからの参加となった。

〈ラオス〉

ラオスには10日から12日まで訪問し、ソムサワート副首相への表敬のほか、パンカム教育スポーツ大臣、ソマート公共事業・運輸大臣、スカン・ビエンチャン特別市長と意見交換を行った。意見交換では、ラオスの改革開放路線による経済改革、2012年に予定されているアジア欧州会合（ＡＳＥＭ）首脳会議への取り組み、これらに対するＯＤＡを始めとする我が国からの協力、円借款の再開問題、メコン川開発や人材育成などへの支援が話題となった。このほか、ラオス議会のラオス日本友好議員連盟との意見交換を行い、またラオス商工会議所を訪問した。さらに、ラオスで活動する国際協力機構（ＪＩＣＡ）の専門家、青年海外協力隊員、シニアボランティアの皆さんと意見交換を行った。我が国のＯＤＡ案件については、ラオス国立大学におけるＩＴサービス産業人材育成プロジェクト、ビエンチャンバス公社、青年海外協力隊員が派遣されている母子保健病院、気象レーダー施設を視察した。

日本からのＯＤＡの感謝の言葉と国旗が入っている気象レーダー施設

二ノ湯議員親書を渡す

宇治市ラオス友好協会では2003年９月にラオスとの間で、交流協定を締結し、教育、スポーツ分野での交流事業を行ってきている。教育事業については、宗教法人庚申会（辻本公俊代表役員）が小学校建設、学習教材の提供、児童の就学支援に多額の援助を行い、ラオスの人材育成に貢献している。一方、スポーツの面では、2005年には日本ラオス外交関係樹立50周年を記念して、宇治市日本ラオス友好協会が、宇治市の少年サッカーチームをラオスに派遣、ラオスの少年チームと交流試合をして親善を深めた。そのほか、宇治市に関係のある国際ロータリーの方々がラオスにおけるポリオ撲滅運動、ラオス母子保健センターへ運営援助等をおこなっている。宇治市とラオスの関係は深く、二之湯議員はラオス訪問の機会をとらえ、宇治市日本ラオス友好協会（中川惠次会長）の親書を携行、ソムサワート副首相へ手渡した。

宇治市日本ラオス友好協会会長の親書をソムサワート副首相に手渡す

〈タイ〉

タイには12日から14日まで滞在し、キティラット副首相兼商務大臣を表敬したほか、昨年の洪水被害を踏まえ、ウィラポン洪水対策委員長・元副首相、スラボン外務大臣、スカムポン運輸大臣と意見交換を行い、洪水被害の復旧・復興状況、我が国からの緊急支援、被災した日系企業に対する支援、今後の治水・防災対策のためのＪＩＣＡによる治水対策マスタープランに関する技術支援などについて話し合った。またタイで活動するＪＩＣＡ専門家、青年海外協力隊、シニアボランティアの皆さんとの意見交換を行った。昨年のタイの洪水で被災したバンコクの北にあるロジャナ工業団地を訪問し、工業団地公社と意見交換を行ったほか、ホンダ、ニコンの両社の被災状況、復旧・復興への取り組みを視察した。タイは中進国として発展を遂げているが、その社会経済基盤は我が国のＯＤＡが大きく貢献した。日本政府の援助で完成したバンコク市内の地下鉄ブルーライン、タイ国鉄を視察、試乗した。国鉄はまだまだ貧弱であるが、地下鉄は設備もよく、清潔でバンコクの交通渋滞の緩和に役立っている。また、バンコク首都圏に水を供給しているバンケン浄水場を視察した。

後方で洪水被害に遭った車をスクラップにしている。ホンダ工場で

洪水で使えなくなったホンダの生産ライン

参議院決算委員会 福井へ視察

もんじゅの是非を考える

国の厳しい財政状況下、財政の健全化は永年の課題であり、総予算の見直しが求められている。昨年末の12月8日開かれた衆議院決算委員会では、原子力政策の見直しの結論が出るまでの間は、高速増殖炉(もんじゅ)、及び核燃料サイクル関連予算の縮減が決議された。特に高速増殖炉(もんじゅ)は、昭和42年以来1兆円以上の巨費を投じながら、その実用化には、今なお技術が完成されていないため、今後40年近い時間がかかり、2050年と想定されている。今後も莫大な予算が必要である。従って、福島原発事故以来、原発はじめ「もんじゅ」の存廃を含めた議論が始まっている。

原子力研究開発機構との意見交換

参議院決算委員会(山本順三委員長)では、福井県敦賀市のもんじゅ施設の視察、福井県内の地域経済情勢を聴取するために、国会開会前の1月18日、福井県に出向いた。「もんじゅ」の現場視察を終えた後、もんじゅの建設、管理等を行っている「独立行政法人日本原子力研究開発機構」の鈴木理事長始め幹部から施設の概要等の説明を受けるとともに、これまでのトラブルの発生原因と再発防止策について意見交換をした。機構側は福島第一原発事故の教訓を生かして万全の安全対策を講じており、東北大震災以上の地震、津波がおきても大丈夫であると述べていた。さらに資源小国日本にとっては、長期的、安定的なエネルギー政策は絶対に必要であり、高速増殖炉技術を国家の先進技術として持っておく事は絶対に必要であると決算委員会の面々に訴えていた。原子力を推進する機構としては当然の主張であり、原子力に賭ける熱意はよく伝わったが、「もんじゅ」は現在、運転は休止したままで、それでも年間約200億円の費用がかかる。どこまで委員の面々に理解を得られたか疑問である。それ以上に、原発に嫌悪感を持つ国民の理解が必要である。

福井県西川知事、幹部との意見交換

どうするのか「もんじゅ」

40年の歳月と1兆円以上の経費をかけて積み上げてきた技術の蓄積を継続させるのか、エネルギー政策を転換して、脱原発を目指すために「もんじゅ」を廃止するのか非常に難しい判断が求められている。政府の行政刷新会議の事業仕分けでは、全ての委員から、高速増殖炉は無駄使いであり、中止するべきだとの意見が出された。福島原発事故以来、事故の収拾に必要な多額の費用と国民の原子力アレルギーを考えれば、十分理解ができる。マスコミ各社の論調も「もんじゅ」の存続には非常に厳しい。だが石油、天然ガスは有限、しかも資源獲得競争の中で、値段は高騰する。当然電力料金も高くなり、国民負担も多くなる。資源小国日本として国際競争を勝ち抜くためには、より一層技術を高めて、安全な原子力発電は、少なくとも当面は最小限必要である。それには、原発の立地県及び市、町に理解と協力を得る事も大事なことである。いずれにしても、前途には高い障壁が待ち構えている。何よりも国民から信頼される原子力行政を進めることが必要である。

核燃料が入っている原子炉を覗く委員たち

和服姿で気分新たに 和装振興議員が集う

1月24日、第180回通常国会が召集された。例年の事であるが、超党派で結成されている和装振興議員連盟に加盟している議員は着物を着て本会議場に入場、開会式に臨む。和装振興議員連盟に入っているとはいえ多くの議員は、自分で着物が着られない。当日は衆議院第1議員会館で装道礼法きもの学院の着付けの指導者がボランティアとして応援に駆け付け、着物を着せてくれた。開会式が終わり、天皇陛下をお見送りした後、国会議事堂正面玄関で全員揃って記念撮影をした。二之湯議員も着物で登庁した。

自民党参議院の同僚議員と、右から大家敏志(福岡選挙区)藤川政人(愛知選挙区)、二之湯智、三原じゅん子(比例区)、末松信介(兵庫選挙区)、中村博彦(比例区)

門川大作氏、自力の差で再選
10行政区で中村氏をリード

1月22日告示された京都市長選挙は、現職門川大作氏が、自民、民主、公明党に加え、みんな、社民の推薦を得て、共産推薦の中村和雄氏との一騎打ちとなった。今回の選挙は、国政で厳しく対立している自民、民主が相乗りで共産推薦候補と戦った。市民には非常に分かりにくい選挙であった。しかも、2人の候補者の政策は似かよっており、その上、今年の冬はことのほか寒さが厳しく、有権者の選挙への関心は低く、2月5日行われた選挙の投票率は36.77％に終わった。門川氏は左京区を除いて10行政区で中村候補を押さえ、約3万2千票の差をつけて再選を果たした。都道府県知事、政令都市市長選挙は大きな権力を持つ政治的指導者を選ぶ選挙である。政党として所属する国会、地方議員が堂々と政策を述べ、持てる力を発揮し、党組織を動員するには、相乗り選挙がいいのかどうか、今後考える必要がある。

自民党を代表して御礼の挨拶をする
二ノ湯参議院議員

八幡市長選、自民民主の激しい戦い
総選挙前、負けられない両陣営

中央の厳しい対立をよそに、京都市長選挙では自民・民主は相乗りで現職門川氏を推薦した。一方、5日告示された八幡市長選挙では、自民公明推薦の堀口文昭氏（前八幡市副市長）、民主、社民推薦の長村善平氏（前八幡市会議員）の激しい戦いとなった。京都市長選挙では、互いに気をつかって、奥歯に物が挟まったような話しぶりであった応援弁士も、八幡市長選では、相手陣営の攻撃も容赦がない。これでよく京都市長選を仲良く戦ったという感じである。予想される総選挙を前に、両陣営とも絶対に負けられない戦いである。自民民主とも国会、府会議員を動員、党挙げての選挙となっている。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

身辺雑記

一、評判の悪い民主党であるが、大津市長選挙は民主党推薦の女性候補が勝った。現職は2期8年、県会、国会も経験したベテラン政治家。それが38才の素人に1万票近い差を付けられて敗北。来るべき総選挙。自民党に甘くない。

一、ラオス、タイの料理は初めての体験である。行く前は、自分の口に合うかどうか心配したが、美味しかった。食わず嫌いという言葉があるが、私の場合まさに、その通りだった。案ずるより産むが易しである。

一、宿泊のホテルは申し分なかったが、洗面所、風呂の水回りの設備は日本のホテルがはるかに優れている感じだ。水の勢い、温度調整、器具の使い勝手など、日本のホテルの便利さに慣れた者から見れば、随分と不便である。

一、議会で特別委員会が設置されると先ず委員長選出が行われる。年長者が委員長席に座り仮委員長を務める。消費者に関する特別委員会では私が一番年上。何時の間にか最年長になってしまった。議会が若返ったのか。

一、ここ数年地球温暖化の影響か、比較的暖かい冬が続いたが、今年は寒い。昔は、暖房器具もなく、冬寒いのは当たり前と生活していた。だが人間とは勝手なもので、体が温かさに慣れてしまって、寒さが身に沁みるこの頃である。

一、またまた沖縄防衛局長の問題発言。「選挙に棄権しないで投票に行きなさい」は目くじら立てることでない。特定の人に投票を誘導するような発言は全体の奉仕者たる公務員として絶対に許されない。実際どうだったのか明らかにすべきだ。

「日本真生塾」 第17回・第18回例会のお知らせ

平成24年2月27日(月)　18時～21時
※講師は自民党京都府第2選挙区支部長　うえなか康司様です。

平成24年3月26日(月)　18時～21時

場所：**龍谷大学アバンティ響都ホール**（京都駅八条口前アバンティ9F）

★今後のテーマは「戦後の日本」について進めてまいります。

＜お問い合わせは事務局へ＞（担当：近藤）
TEL：050-7544-4018　メール：nihonsinseijuku@yahoo.co.jp
内容・年会費など詳しくはホームページをご覧ください。日本真生塾 で検索。

日本真生塾　塾長　**岡本幸治**

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。

毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料　1200円

郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

― お問い合わせ先 ―
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com